



サグリ株式会社

— 農地の見える化で、価値を創造する

01

会社概要

私たちについて

衛星データ × AI

衛星データと圃場データ等を組み合わせた
農業分野のビッグデータを機械学習で解析し、
解析結果と農学の知見を活かして、ソリューションに転換します

私たちのビジョン

人類と地球の共存を実現する

経済発展は、人々の暮らしを豊かにする一方で、食糧危機や気候変動などの多くの課題を生み出してきました。

これらの課題に取り組むことは、これまで、国や自治体の役割とされてきました。
しかし、民間企業からもこれらの課題に向き合い事業を通して解決できると信じています。

衛星やAIなどのテクノロジーの進化は
人類と地球が共存する持続的な社会を作るための大きな鍵となるはずです。

わたしたちは、次世代に明るい未来を創るため、課題に向き合い、答えを出し続けます。



受賞歴

2024 ● 「第6回宇宙開発利用大賞」 内閣総理大臣賞受賞

2023 ● 経済産業省「J-Startup Impact」選定
● APEC「BCG(Bio-Circular-Green)Award」 Youth Leader 日本人初受賞
● 「ICCサミット KYOTO 2023」カタパルト・グランプリ優勝
● 経済産業省「J-Startup 2023」選出

2022 ● 「B Dash Camp 2022 FALL IN FUKUOKA」準優勝・野村賞・UPSIDER賞受賞
● 「ICCサミット KYOTO 2022」2位入賞
● 「JAアクセラレーター第4期」優秀賞受賞
● 環境省「環境スタートアップ大賞」 環境スタートアップ事業構想賞受賞

2021 ● 「J-Startup KANSAI」選定

2018 ● 「500 KOBE ACCELERATOR」採択



J-Startup



02

私たちの技術

私たちの技術

衛星データとAI技術を活用し、世界中の農地に向けた多様なデータ分析サービスを提供しています

ミッション：農地の見える化で価値を創造する



衛星データ



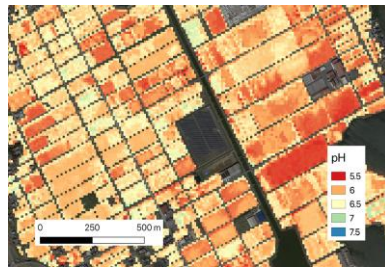
AIによる
機械学習

農地の自動区画化



高解像度衛星画像を、AI画像処理によって、コスト効率よく「AIポリゴン」として区画化

土壌分析



衛星の分光データを解析し、土壌の化学分析（全炭素、全窒素、pH、CECなど）を行う

湛水検知



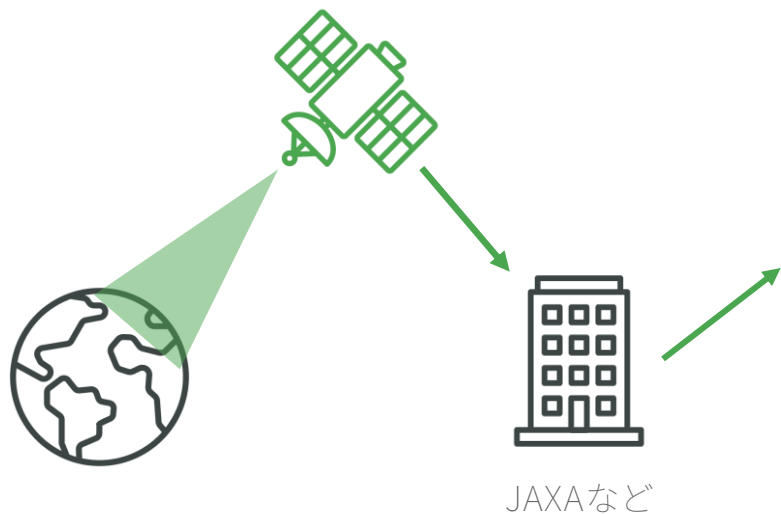
水田やその他の農地における湛水状況をモニタリングし、検出します

サービスのご紹介ー 広域土壌分析

作物生育のモニタリング、土壌養分の可視化、施肥改善を支援

衛星データの取得・蓄積

衛星データの分析・提供



AIによる
土壌分析



施肥改善の
提案



管理者

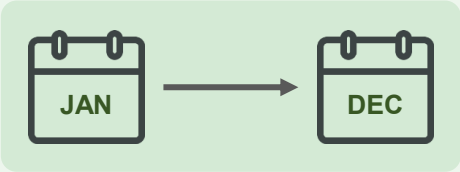
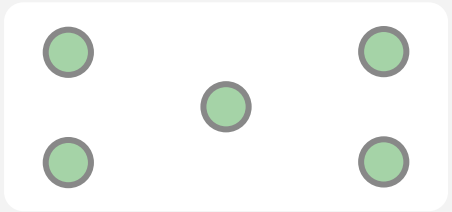


栽培改善への
活用



農家

従来の土壌分析との違い

	分析範囲	分析結果	期間
Sagri	圃場全体 	年間通しての結果 	数分
従来	圃場の一部 	取得した日の結果 	数週間～1ヶ月

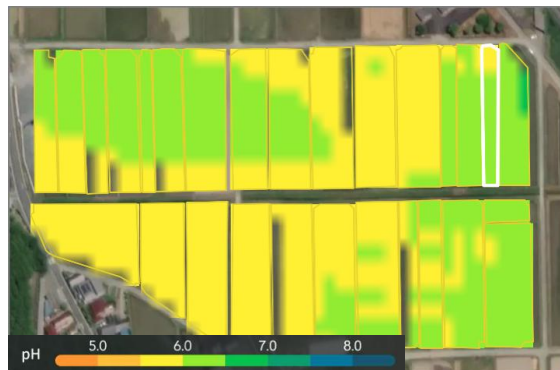
Sagriなら…

- ✓ 短時間で分析結果を提供
- ✓ 圃場全体の状態を把握できる

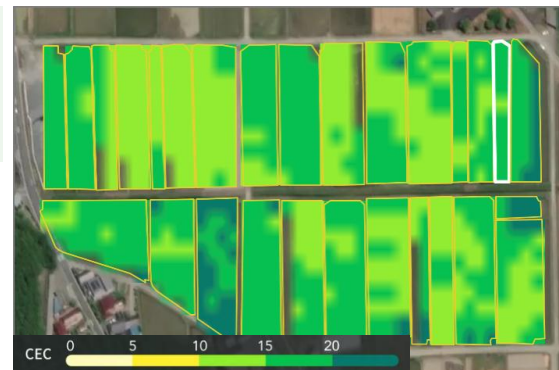
圃場全体の養分分布測定

圃場ごとの地力差を直感的に把握

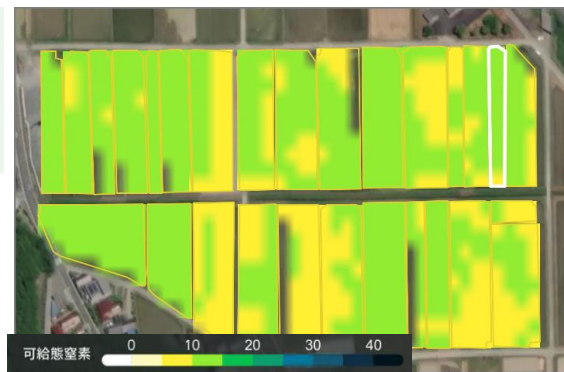
pH



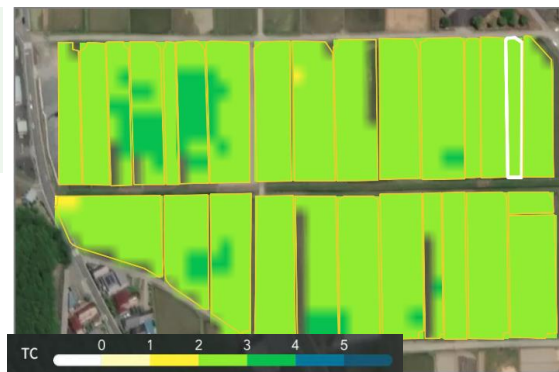
CEC



可給態窒素



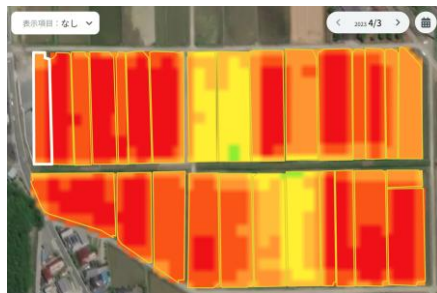
全炭素



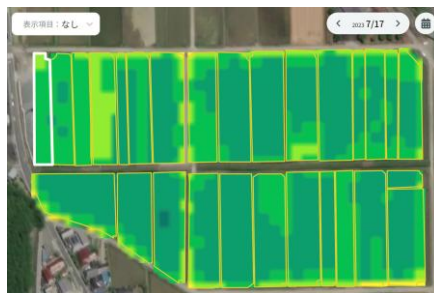
圃場全体の養分分布測定

衛星観測日ごとに過去のNDVIを追跡

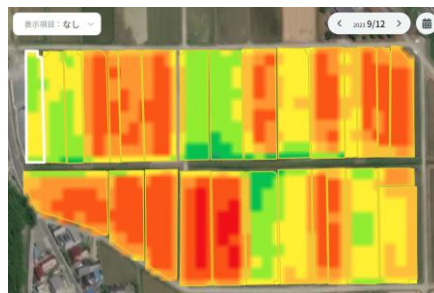
4月



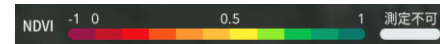
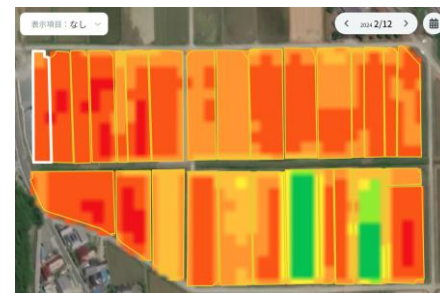
7月



9月



2月



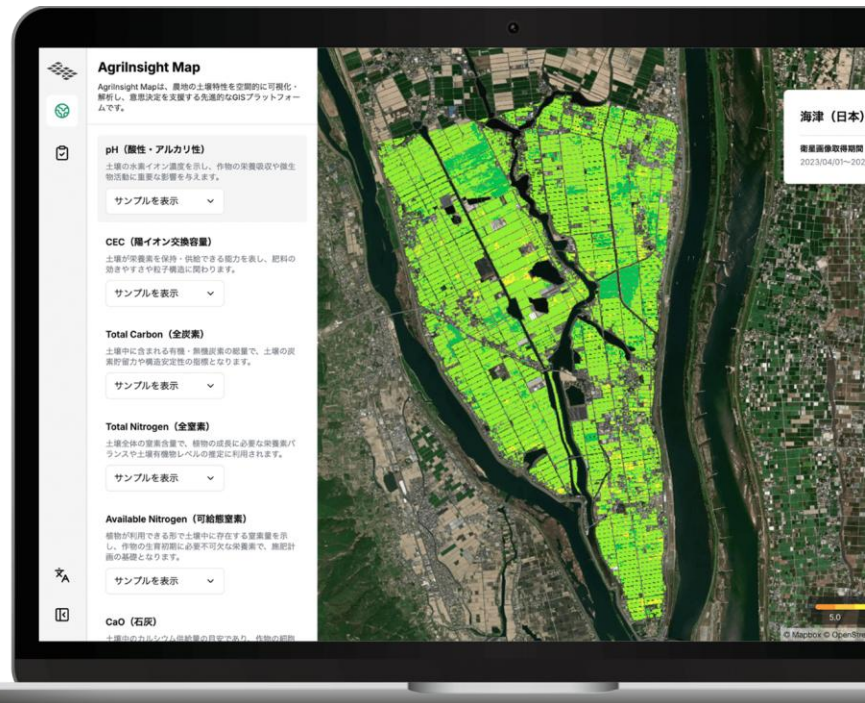
03

アグラインサイトマップ のご紹介

アグリインサイトマップの概要

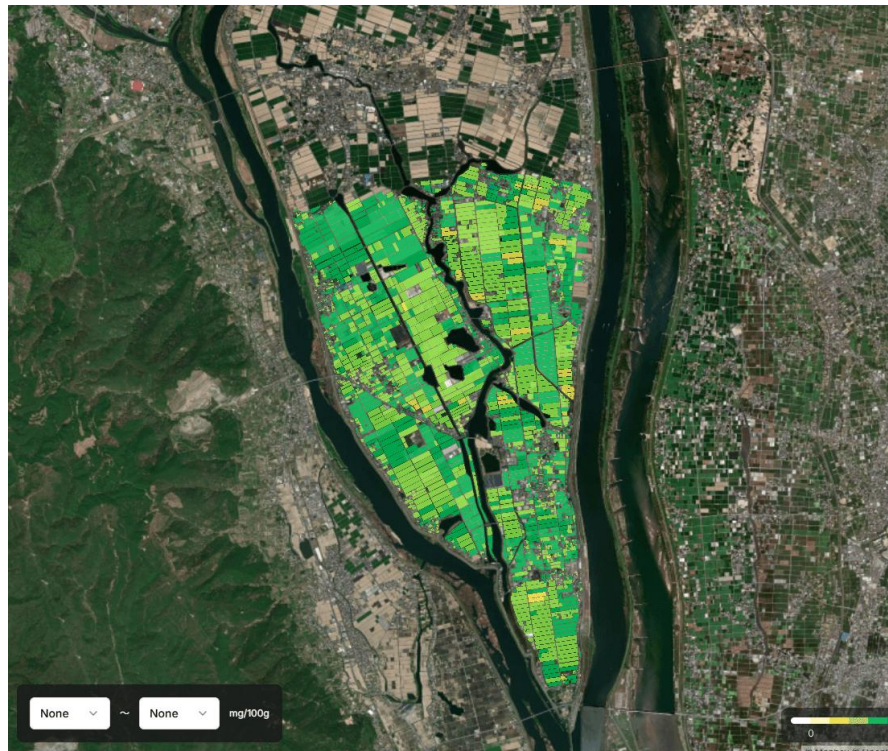
- ✓ アグリインサイトマップは、衛星データとAIを活用した圃場の空間分析・可視化プラットフォーム
- ✓ 圃場の状況評価、生産性向上、脱炭素農業推進といった目標を支援
- ✓ 9つの分析指標と4つの活用事例を提供し、データの探索、投入資材の最適化、サービスの直接依頼が可能

- pH (酸性・アルカリ性)
- 全窒素
- MgO (苦土)
- CEC(陽イオン交換容量)
- 可給態窒素
- 湛水率
- 全炭素
- CaO (石灰)
- 農地の区画



主な活用例（2025年8月時点）

広域での施肥設計のための土壌状況評価



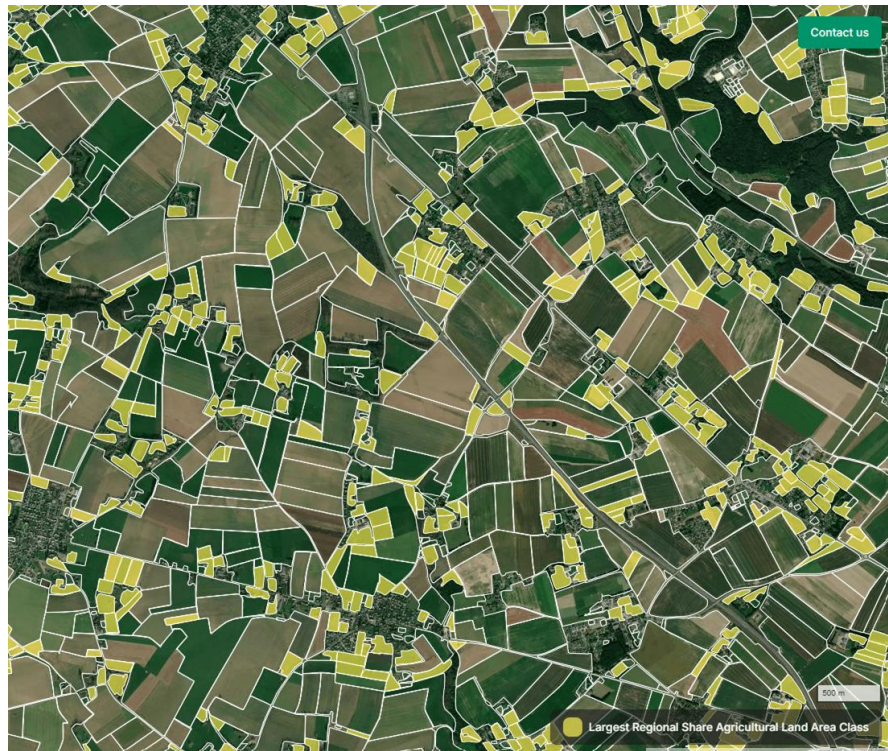
衛星データによる施肥計画

- ① 圃場ごとの可給態窒素を可視化
- ② 設定した閾値で窒素量の低い/高い圃場を選定
- ③ 分析結果に基づき施肥量を計画（例：窒素低い場合+20%、高い場合-20%）
- ④ 現地で施肥計画を実施

補足：農家は専用アプリ（ベータ版）でいつでもデータを
確認可能

主な活用例（2025年8月時点）

区画情報を使って農地の面積統計をとる



農地面積統計

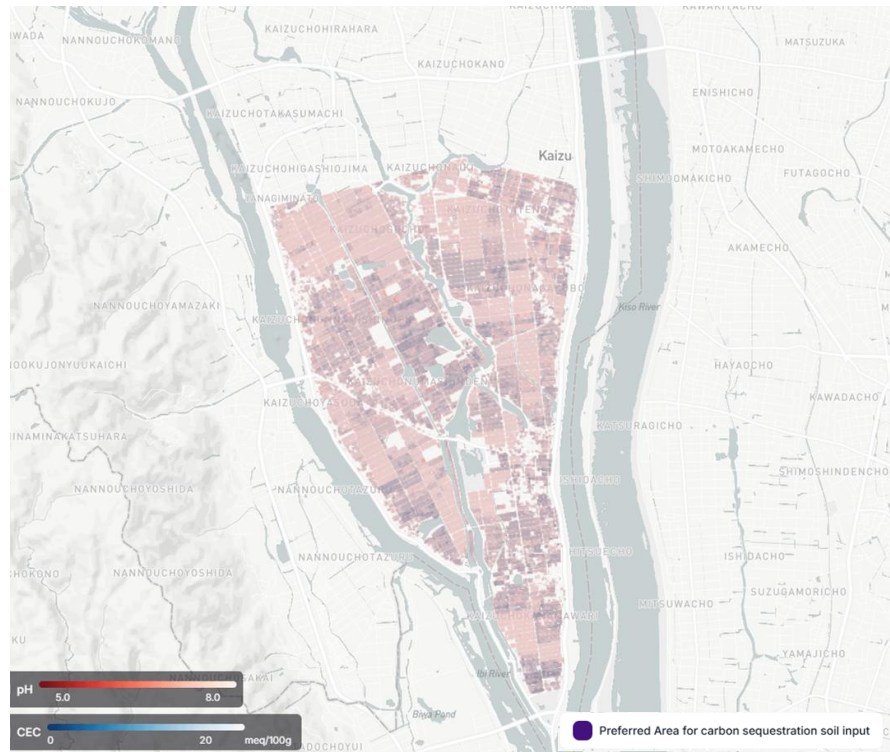
課題：多くの地域で農地データが不足し、大規模モニタリングが難しい

解決策：AIポリゴンで衛星画像から農地を自動マッピング・面積算出・変化追跡（1,000km²以上対応）

- 活用例：
- ✓ カーボンクレジットプロジェクト
 - ✓ 市場参入・販売戦略
 - ✓ 政府政策立案
 - ✓ 農業資材の市場規模・需要予測

主な活用例（2025年8月時点）

作物の生育状況を考慮してバイオ炭の施用場所を決定



バイオ炭施用の最適化

課題：バイオ炭の効果は土壌のCEC・pHにより異なり、不適切な使用は収量減の原因に

解決策：CEC（青）とpH（赤）をマッピングし、高ポテンシャルゾーン（紫）を可視化して重点施用を実施

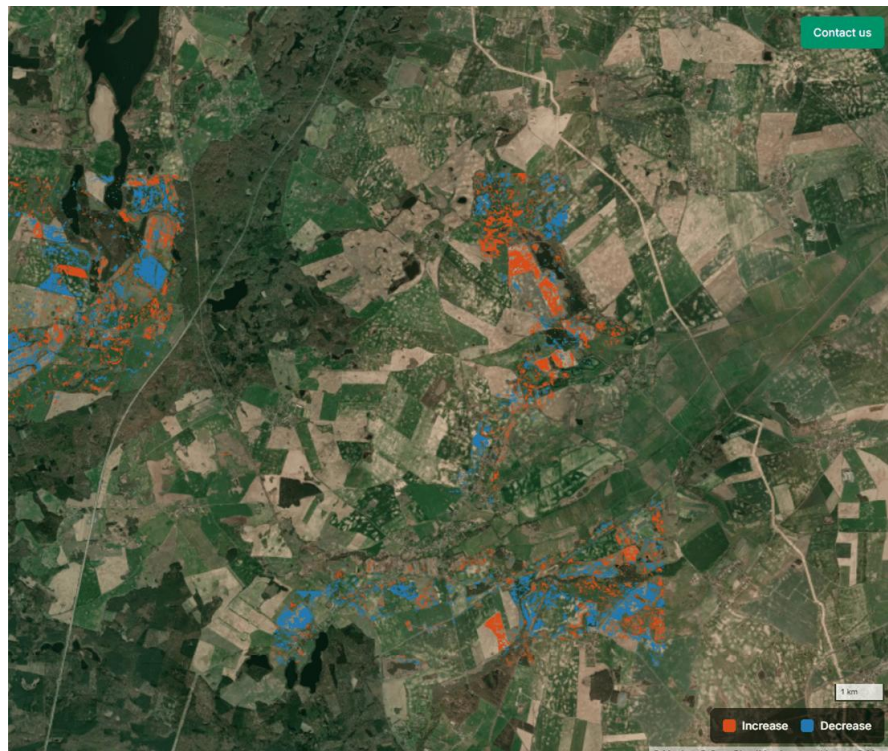
メリット：

- ✓ コスト削減
- ✓ 収量向上
- ✓ 土壌改善のモニタリング
- ✓ 作業効率向上

更なる活用例：石灰施用計画および
ERWプロジェクトサイト選定

主な活用例（2025年8月時点）

土壌有機炭素が増加している農地を特定



土壌有機炭素（SOC）増加傾向の検出

課題：地域に適したカーボンファーマーミング手法の開発は時間とコストがかかる

解決策：衛星データと統計解析を用いてSOC（土壌有機炭素）の傾向をマッピングし、増加している地域を特定

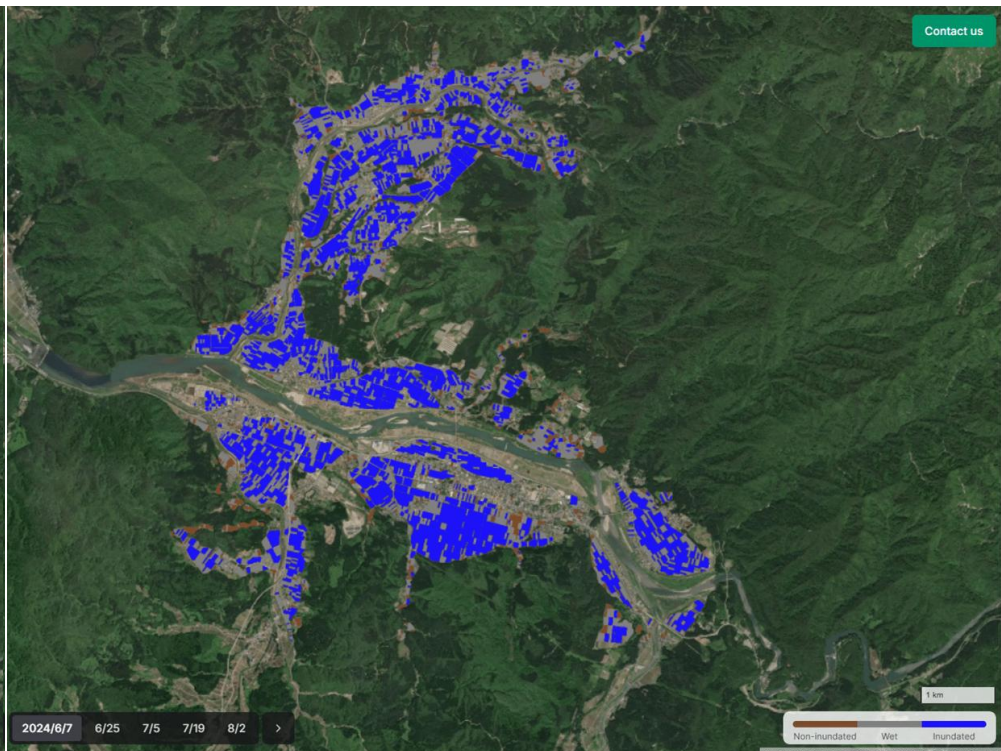
メリット：

- ✓ 実証済み手法の迅速導入
- ✓ 農家の意欲向上
- ✓ 信頼性向上

更なる活用例：SOC（土壌有機炭素）の減少検出、カーボンクレジット向けの低コストモニタリングを可能に

公開予定の活用事例

水田の湛水検知



04

企業との取組事例

カーボンインセット

[ホーム](#) > [ニュース](#)

2024.12.13 未分類

＜プレスリリース＞サグリ、キリンホールディングスに対してサプライチェーンにおける農地の炭素貯留量予測サービスを提供。SBTi-FLAGに対するGHG排出量・炭素除去量算定、削減・除去活動支援事業を開始。



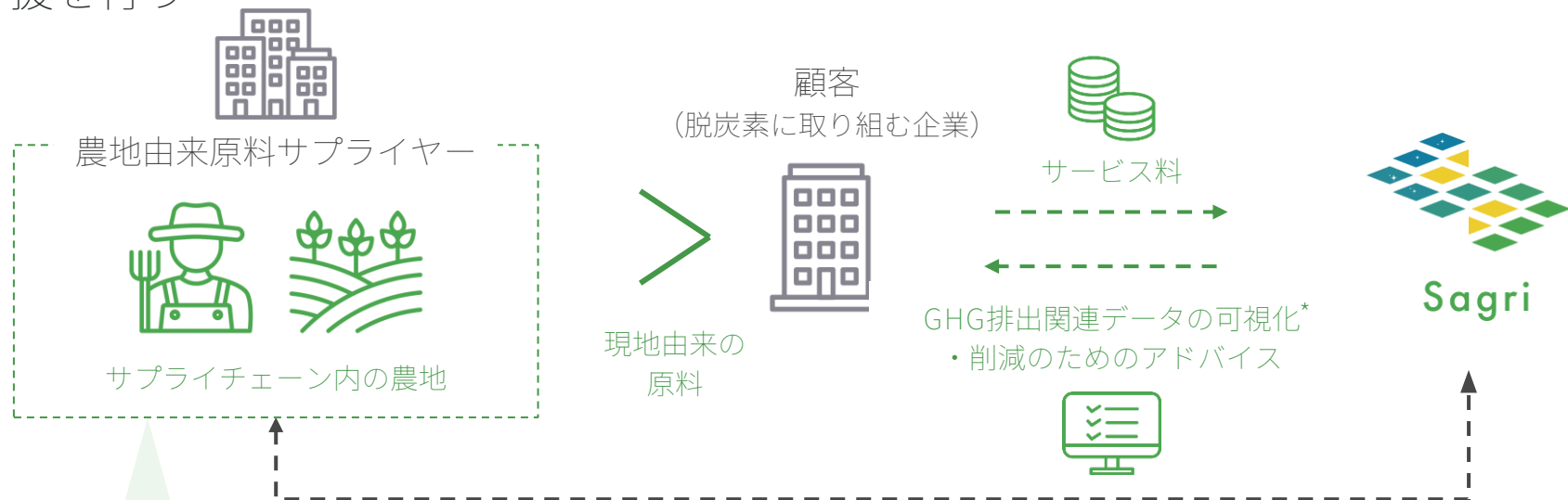
サグリ株式会社（代表取締役CEO 坪井俊輔、以下「サグリ」）は、キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志、以下「キリンホールディングス」）に対してサプライチェーンにおける農地の炭素貯留量予測サービスの提供を開始しました。今後、農業由来の温室効果ガス（GHG）排出量・炭素除去量算定、削減・除去活動支援事業の拡大を目指します。

出典：

<https://sagri.tokyo/2024/12/13/%e3%82%ad%e3%83%aa%e3%83%b3%e3%83%9b%e3%83%bc%e3%83%ab%e3%83%87%e3%82%a3%e3%83%b3%e3%82%b0%e3%82%b9/>

カーボンインセット事業モデル

農業由来の温室効果ガス（GHG）排出量・炭素除去量の算定、削減・除去活動支援を行う



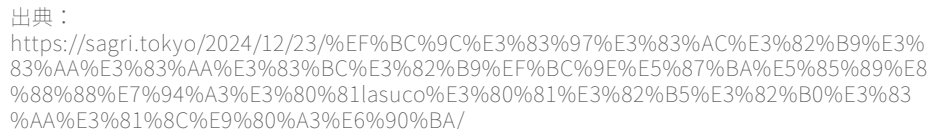
土壌化学性の分析に基づき、サプライヤーはGHG排出削減（例：化学肥料の削減）と土壌有機炭素増加の為のプログラムを導入することができる。



衛星データとウェブアプリケーションを用いた農地データ分析

* GHG排出関連データ：スコープ3／カテゴリー1（農地由来の原材料）

カーボンクレジット



出光興産、Lasuco、サグリが連携し、ベトナム国内初の 農地管理改善カーボンクレジット登録を目指し協業に合意。2026 年事業化に向け、衛星解析技術を活用した環境再生型農業の実証を開始。

カーボנקレジット事業モデル

カーボנקレジットに関するプロジェクト管理を行う

